

項目		説明
試料・情報の利用目的及び利用方法	研究課題名	食道癌手術周術期における至適輸液量の探索
	研究対象者	食道癌と診断された患者さんのうち、2020 年 1 月から 2024 年 12 月の間に神奈川県立がんセンターで食道癌手術を受けられた方で、包括同意を得られた方
	研究目的	食道癌手術は未だ術後合併症率が高く、周術期の輸液療法により合併症が減る可能性があります。手術中・手術の後の点滴の量と合併症の関連を調べます。
	研究方法	当院における食道癌術後患者 200 症例の短期的予後（合併症率）と臨床病理学的因子及び術中・術後の輸液量との相関を後方視的に解析し、周術期の至適輸液量を検証します。
	個人情報保護	対象となる患者さんの診療情報には個人情報が含まれますが、氏名や住所などの情報を削り、容易に個人を特定できないように研究用の番号（識別コード）で管理します。個人と識別コードを照合できるようにする対応表を作成しますが、パスワードロックや鍵をかけて厳重に保管し、院外へ提供することはありません。
	研究期間	西 暦 2 0 2 5 年 7 月 7 日 ～ 西 暦 2 0 2 6 年 1 2 月 3 1 日
	利用又は提供を開始する時期	[X]総長が研究実施を許可した日 [] 西暦 年 月 日頃（研究の進捗によって前後いたします）
利用する試料・情報の項目（チェック[X]が入った項目を利用します）	[]試料:	[]血漿、[]血清、[]全血、[]末梢血から抽出した DNA、 []病理検体(具体的に記載: _____)、 []尿、[]糞便、[]唾液、[]胸水、[]腹水、[]脳脊髄液、 []毛髪、[]その他(具体的に記載: _____)
	[X]情報:	[X]診断名(臨床病期や分類、病理診断を含む)、[X]年齢、[] 生年月日、[X]性別、[X]既往歴、[X]併存疾患、[X]外来日・入院日・退院日、[X]臨床検査値、[X]放射線診断や超音波検査、内視鏡検査等の画像データ、[X]臨床所見・経過（予後追跡データを含む）、[] ゲノムデータ、[X]看護記録、[] その他(具体的に記載: _____)
試料・情報を利用する者の範囲	当センター研究責任者	消化器外科 兼松恭平
	共同研究機関および責任者	なし
	その他の機関	なし
試料・情報の利用停止および情報公開に関する窓口		神奈川県立がんセンター消化器外科・兼松恭平・045-520-2222 利用停止のお申し出は 2025 年 07 月 31 日までにお問い合わせいたします ただし、お申し出いただいた時にすでにデータが固定され、研究成果が論文などで公表されていた場合には、患者さんのデータを廃棄できない場合があります